

愛知県環境影響評価審査会東部知多クリーンセンター部会 会議録

- 1 日時 平成26年4月25日（金）午前10時から午前11時30分まで
- 2 場所 愛知県自治センター 5階 研修室
- 3 議事
 - (1) 部会長の選任について
 - (2) 知多都市計画ごみ焼却場（一般廃棄物処理施設）東部知多クリーンセンター整備事業に係る環境影響評価準備書について
 - (3) その他
- 4 出席者
委員5名、説明のために出席した職員14名、都市計画決定権者及び事業者9名
- 5 傍聴人 1名
- 6 会議内容
 - (1) 開会
 - (2) 議事
 - ア 部会長の選任について
 - ・ 部会長について、酒巻委員が互選により選出された。
 - ・ 議事録の署名について、酒巻部会長が田代委員と山澤委員を指名した。
 - ・ 部会長代理について、酒巻部会長が二宮委員を指名した。
 - イ 知多都市計画ごみ焼却場（一般廃棄物処理施設）東部知多クリーンセンター整備事業に係る環境影響評価準備書について
 - ・ 資料4の一部に希少な動物の位置情報が含まれていることから、酒巻部会長が委員に諮り、当該部分の説明等に限り、会議を非公開とすることとした。
 - ・ 資料2、資料3及び資料4（番号1から3まで）について、事務局から説明があった。

<質疑応答>

- 【山澤委員】資料4の番号1について、二酸化窒素の最大着地濃度点の説明は納得できる。ただし、準備書を見ただけでは疑問が生ずるので、評価書ではそれがわかるように記載されたい。
- 【事務局】評価書に記載させていきたい。
- 【二宮委員】準備書15ページの図で、処理対象ごみは、し尿処理残渣、燃えるごみ、破碎選別残渣とある。直接熔融炉であれば、埋立物を熔融して、最終処分場の延命化をすることがあるが、今回は、他地域の埋立物を搬入して熔融する計画はないか。

【事務局】今回の計画ではない。

【二宮委員】準備書 377 ページで、浮遊粒子状物質の 1 時間値のバックグラウンド濃度が評価値を超えているとあるが、今回の計画は焼却施設のリプレースであるため、バックグラウンド濃度が改善されるということはないか。それとも、新施設は既存施設と同程度であり、バックグラウンド濃度は変わらないということか。

【事務局】このバックグラウンド濃度は、事業実施区域内で測定したもので、一時的に上昇した特異値を危険側として採用したものである。バックグラウンド濃度は既存施設分を含んでいるため、実際の将来予測濃度はもっと下がると思われる。

【酒巻部会長】準備書 370 ページで、浮遊粒子状物質の最大着地濃度が 0.0000261 mg/m³ と小さいため、評価値である環境基準と比較すると影響はほとんどないと思われる。

【二宮委員】寄与濃度は小さいが、既存施設の減少分により現状のバックグラウンド濃度が下がるという予測結果にはならないか。

【事務局】既存施設の減少分を勘案した予測は行っていない。

【二宮委員】リプレースによる改善効果も予測すると良いと思った。

【事務局】予測の前提となる排出ガスの諸元は、上限となる計画基準値等を採用しており、実際の排出濃度とは異なることから、アセス上では改善効果を表現できないのが実態である。ご理解いただきたい。

【山澤委員】準備書 365 ページで、浮遊粒子状物質の 1 時間値の将来濃度が、評価値を超過したのはバックグラウンド濃度が評価値を超えていることによるとある。しかし、建設機械の稼働時については、寄与濃度が大きいため、バックグラウンド濃度が大きいから仕方ないとは言いにくい。高濃度が出ない日に稼働するなど工事の実施スケジュールを検討するなど、環境に配慮するような意見を出していただきたい。

【事務局】知事意見に反映したい。

【田代委員】準備書 17 ページに新施設の建屋立面図があるが、基礎構造によっては掘削工事や杭打ち工事が発生する。大気や騒音の予測では、建設機械として山留材削孔機、バックホウ、ブルドーザ、ラフタークレーンが挙げられているが、実際の工事の種類にこれらが則しているか。

準備書 514 ページで、沈砂池の深さを 2.5m、ゴミピットの深さを 5m としているが、掘削工事の最大深さは 5m か。既存施設に隣接した工事であるが、止水対策は行われるのか。止水対策を行うと地下水の状況が変わると思う。

準備書 515 ページの予測結果では、地下水位について、地盤は粘土層が続く、影響が小さいとあるが、資料編 260、261 ページのボーリング柱状図を見ると、シルトが卓越しているものの砂層がいくつかある。また、地形図を見ると川や水田があるため、水の流れがあると思われる。

繰り返しになるが、施設概要は、地上部だけでなく地下部の構造も示されたい。また、工事計画の中で掘削規模や杭打設の内容を示されたい。工事開

始後でないとは詳細計画を明らかにすることが難しい場合は、既存施設の履歴に準じて検討されたい。工事計画に応じた建設機械が選定されているか確認したい。また、砂質の影響がないか。特に周辺河川に連続していないか気になる。

【事務局】地下構造、掘削規模、建設機械の種類や地盤の状況などについて、次回、回答する。

【山澤委員】温室効果ガスの排出について、直接溶融炉はコークスを使用するため、CO₂排出の面では不利だが、直接溶融炉を選定した経緯と既存施設のCO₂排出量との比較がわかれば教えていただきたい。

【事業者】自前の最終処分場の容量が少ないことから、埋立物を減容化するため灰溶融炉を含む方式の中から、熱効率の高い直接溶融炉を選定した。

【事務局】既存施設のCO₂排出量は、次回、回答する。

【二宮委員】最終処分場の延命化の効果はどれくらいか。

【事業者】既存施設のストーカ式では、ごみ量の約10%が主灰、約3%が飛灰となる。新施設の直接溶融炉では、スラグを有効利用するため、主灰分が減容される。

【事務局】既存施設及び新施設から発生する最終処分量についても、次回示したい。

【田代委員】準備書9ページのごみ量の実績と予測で、平成27年度に人口が増加するにも関わらず、燃えるごみの量が減少する。これは、ごみ袋の有料化などの対策を行うということか。また、新施設の稼働後に、燃えるごみの範囲にペットボトルなどを追加していくのか。

【事業者】ごみ量の減少は、構成市町の資源ごみの分別努力によるものである。また、資源ごみを燃やすことはない。国の減量化計画に従って、減量化を図っていく。

【谷脇委員】準備書133ページの学校等の環境の保全において配慮が必要な施設の分布の状況について、事業実施範囲に最も近い施設として、1km以内に大東小学校があるが、これに対する影響が大きいのではないか。このあたりで調査をしているか。

【事務局】大東小学校は主風向である北西風の風上にある。大東小学校周辺で調査はしていない。

小学校では健康診断を行っているが、健康被害は聞いていない。主風向の風下でなくても、ダウンドラフトによる短期的な影響は考えられる。また、準備書369ページで、二酸化窒素の最大着地濃度点が記載されており、本日の事業者見解で最大着地点が3.2kmから3.0kmに修正されるとのことだが、その付近が学校になっている。ただし、寄与率は低い。

- ・傍聴人の退出後、会議を再開し、資料4（番号4）について、事務局から説明があった。

<質疑応答>

【酒巻部会長】緑地帯の幅はどの程度か。

【事務局】約5mである。

資料4の番号4について、生態系の委員に別途説明し、問題があった場合は、次回お示しする。

(3) 閉会